

■三輪執斎 儒学者。佐藤直方に朱子学を学んだ後、中江藤樹の著作で陽明学に傾倒、「伝習録」の注釈で中興の祖に。

みわしっさい

ジャクシャインの乱 1669＝

京都綾小路通東洞院東入ル神明町で、父に連れられ諸国を遊歴した後に京都に定着した町医者沢村自三の次男に生まれる。名は希賢、通称は善蔵、貞一。

大和の大神神社の宮司の末裔で、神道を継いだ祖父の長兄の孫弟子に白隠が出ている。

藤十郎登場・1678＝9歳：

越後騒動・・・1679＝10歳：母都次に続いて、

徳川綱吉将軍1680＝11歳：

天下一禁止・1681＝12歳：父が死去して、孤児となり、父の従弟で白木屋創業者初代大村彦太郎に引き取られるも、父の遺言で厳しい状態に置かれ、

堀田正俊暗殺1684＝15歳：元服後、父の友人だった真野氏の養子となる。

ある時、北野天満宮でおみくじを引いて、医者・儒者の道を志し、

・・・1686＝17歳：江戸に下り、堂上歌人の河瀬菅雄について医学を学ぶとともに、歌人としての素地を培い、

生類憐令始・1687＝18歳：儒者の佐藤直方に入門して、朱子学を学ぶ。直方から他姓を継ぐのは不孝と論され、三輪姓に戻る。

たちまち頭角を現して、

湯島聖堂・・・1690＝21歳：師が藩儒を務める厩橋藩の京屋敷での講義を任せられ、師の「四書便講」を校訂し、選ばれて跋文を寄せるほどになり、

世間胸算用・1692＝23歳：師直方の推挙で、厩橋藩主酒井忠挙の儒官に召されるが、

奥の細道・・・1693＝24歳：直方に従って前橋城下に至り、北西にある橘山を訪れている。次第に陽明学に傾倒して、朱子学に疑問を抱き始め、藩主酒井忠挙が浄土宗の高僧祐天に帰依したことに抗議する形で、

生類憐令頂点1695＝26歳：突然、致仕して、本郷菊坂に退去、躑躅・罌粟・菊の三躑を作り自適の生活をするうち、

荻原勘定奉行1696＝27歳：

・・・1697＝28歳：深刻な自己反省と崎門朱子学への懷疑から、京都に帰る。

吉保大老格・1698＝29歳：「王文成公全書」を入手し、「伝習録」や「陽明文録」を熟読して共感、上賀茂に隠棲し、研究に没頭し始め、

・・・1699＝30歳：「答酒井禪正之書」を発表して、陽明学に転じたことを標榜、師直方の激しい批判を受け、破門される。この間、中院通茂・通躬父子の歌会に加わり、京都所司代松平信庸（丹波篠山藩主）と出会い、その正室が酒井忠挙の妹だったことから、信庸の殊遇を受けるようになり、

この間、再婚し、最初の子は夭折したが、

曾根崎心中・1703＝34歳：長男が誕生。転居。*陽明学に確信を持ち、「執斎記」を著して、執斎と号する。

御蔭参流行・1705＝36歳：次男が誕生。

ヰッチ拘束・1708＝39歳：長女が誕生。

徳川綱吉没・1709＝40歳：

この間、三男が誕生。京都各地を転々とした後、

冥途の飛脚・1711＝42歳：熊沢蕃山の命日に当たって、「伝習録」を講義、陽明学者としての道を歩み始め、

乾山陶器店・1712＝43歳：四男が誕生。*信庸の援助で、日本初となる「伝習録」の画期的な注釈書「標註伝習録」を刊行。

和漢三才図絵1713＝44歳：五男が誕生。師直方から、転向が全く名利に基づくものでないことを理解され、破門は解かれる。

絵島事件・・・1714＝45歳：この年、川田雄琴が入門、「伝習録筆記」をまとめる。信庸が老中になり、

徳川吉宗将軍1716＝47歳：信庸に請われて江戸に出る。

・・・1719＝50歳：六男が誕生。直方が死去した際、師の論しで三輪姓に戻ったことを感謝する歌などを詠んでいる。

小石川薬園・1721＝52歳：王陽明の書に私見を加えて解説した「抜本塞源録私抄」を刊行。中江藤樹を陽明の後継者と尊敬している。

火の見櫓制・1723＝54歳：夭折。次女が誕生。

懐徳堂公認・1726＝57歳：下谷和泉橋に*私塾{明倫堂}を開設、陽明学の入門書「四言教講義」などを著して行く。

享保大飢饉・1732＝63歳：好学の大洲藩主加藤泰温から招聘され、高弟川田雄琴を推挙、のち大洲が陽明学の拠点となって行く。

・・・1737＝68歳：*肺結核となったため、{明倫堂}を閉じて、京都に帰り、以後、悠々自適の生活送るうち、

ヰッ船出没始 1739＝70歳：代々の墓がある建仁寺両足院に父母の墓を建て、その背後自らの墓も建てて、和歌二首を刻すなど、歌人としても優れ、「執斎和歌集」を刊行。

・・・1741＝72歳：長女が死去。

・・・1743＝74歳：病が進行して死を覚悟、

梅岩没・・・1744＝75歳：危篤となり、'寛保四年子正月廿五日三輪希賢死'と自書して、没した。